

プロとしての介護業務について——その5

第3者に誤解されないような介護の仕方にも心を配りましょう

プロとしての介護業務について—その1ではプロとしての介護とアマとしての介護の違いを、その2では社会から期待される使命としての介護業務を、その3ではスマイル命ということについて、その4では仕事へのやりがいを持つことの大切さについてお話を致しました。

今回は第3者からみて誤解されないような配慮も必要ですよ、というお話です。

世間では最近も相変わらず、介護施設での暴行だけでなく明石市長の部下への暴言や、保育施設でのスタッフの乳児への暴言、など色々な職場でプロにあるまじき態度がニュースになっております。思わず言ってしまった、やってしまった、ではプロとは言えません。

また爪剥ぎ看護師事件のように、良かれと思ってやったことが仇になってしまう、ということもあります。無罪になるまで3年かかったそうです。最近では特養のドーナツ事件があります。これはまだ係争中です。世の中には信じられないような判決が結構あります。裁判に成ったら折れずに戦うしかありませんが、予防のために出来ることはあります、というのが今回の話です。

今回は、第3者から見ても誤解されないような行動・言葉づかいに気を付けましょうということです。

李下に冠を正さず、瓜田に履を入れず、と言いますが、誤解されるような行動・言葉づかい・態度はなるべくしないように、致しましょう。そして普段から職員同士お互いに気楽に注意し合える環境を作っておくことが大事です。

「無くて七癖」と言いますので、自分で気付かないでしていることもあるかもしれません。その為にはお互いが指摘し合える環境に普段から心がけることが大切です。

指摘されて勿論ムッすることもありますが、そこはアンガーマネジメント・6秒間、そして素直に感謝の気持ちで指摘を受け入れましょう。これはそのまま受け入れろということでは勿論ありません。指摘は指摘で素直に受け入れて自分なりの解釈をして受け止めるということです。指摘の通りするかどうかは個人個人の判断で良いのです。

そして表現の仕方はアサーション“自分も相手も傷つけず適切に自己主張もする”というような言い方をなるべく意識致しましょう。

物事を極めるというのは結構大変なものです。普通は途中で飽きてしまいがちですが、諦めないのが大事のようです。それがプロです。最近靴磨きの世界一やトイレ掃除の世界一の方々が脚光を浴びました。

私達も介護の世界を極めましょう。より良い介護も極めれば極めるほど更に深くなると思います。

老人保健施設一羊館の理念

利用者の方々すべてに尊厳・安心・満足を！

一羊館の行動指針

私たちは、保健・医療・福祉の架け橋のプロに徹します。

私たちは、利用者のQOL・職員のQOL・健全経営の3立を目指します。

私たちは、質向上のために日々の小さな工夫を忘れません。



話合いの3原則：

- ①相手の意見は決して否定しないでしっかり聞きます。
- ②自分の意見はしっかり言う。ポジティブ表現で言います。
- ③正解は一つではないことを自覚して自制します。